

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第7週 (2/11-2/17) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		7週	6週	5週	4週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	17	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	27	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千葉 市					千葉県
		注意報	2/11-2/17	2/4-2/10	1/28-2/3	1/21-1/27	2/4-2/10
			7週	6週	5週	4週	6週
小児科	RSウイルス感染症		2 0.11	5 0.29	2 0.11	1 0.06	20 0.15
	咽頭結膜熱		1 0.06	1 0.06	4 0.22	2 0.11	23 0.18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		38 2.11	68 4.00	56 3.11	65 3.61	371 2.85
	感染性胃腸炎		84 4.67	144 8.47	143 7.94	178 9.89	813 6.25
	水痘		9 0.50	6 0.35	6 0.33	7 0.39	43 0.33
	手足口病		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	10 0.08
	伝染性紅斑	○	21 1.17	16 0.94	25 1.39	18 1.00	78 0.60
	突発性発しん		4 0.22	7 0.41	8 0.44	8 0.44	33 0.25
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	2 0.11	0 0.00	1 0.01
	流行性耳下腺炎		3 0.17	1 0.06	1 0.06	1 0.06	7 0.05
	インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓↓★	298 10.64	808 29.93	1,374 49.07	1,904 68.00
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.20	3 0.60	1 0.20	1 0.20	15 0.43
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	侵襲性インフルエンザ菌感染症	男性	80歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	60歳代	IGRA検査等				
結核	男性	80歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	男性	40歳代	抗体の検出
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	男性	80歳代	病原体の分離・同定	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
	女性	70歳代	病原体の分離・同定等	-	-	-	-

・第7週は、結核3件(17)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2件(2)、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件(3)、百日咳2件(14)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第7週のコメント

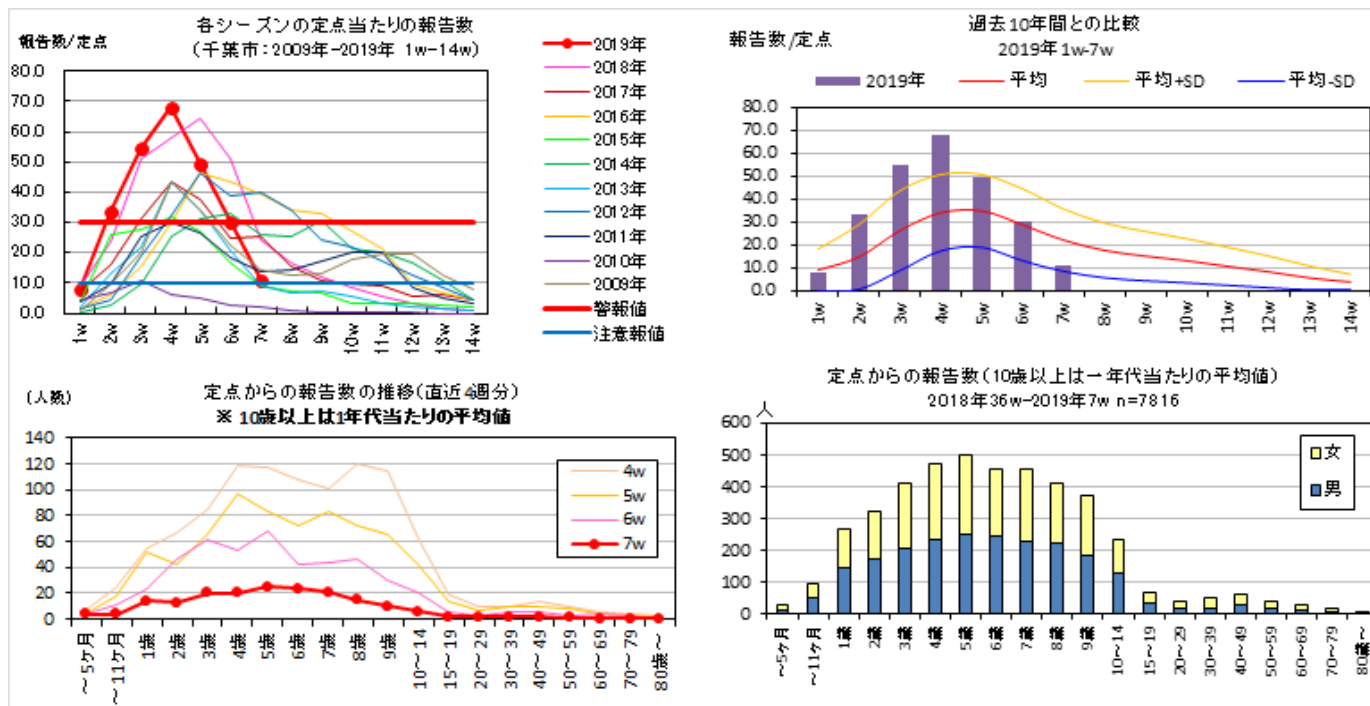
＜伝染性紅斑＞前週より増加し1.17となった。過去10年の同時期と比べると最多。

＜インフルエンザ＞前週より更に減少し10.64となった。流行発生警報終息基準値は上回ったまま。過去10年の同時期と比べると少なめ。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第6週は、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を下回りました。流行発生警報終息基準値(10.0/定点)は上回っており、過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では埼玉県、沖縄県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多くなっています。千葉市の第7週は前週より更に減少し10.64となりました。流行発生警報終息基準値を上回ってままとされており、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。区別の発生状況は、若葉区(19.0/定点)で流行発生警報終息基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは4歳で最も多く発生報告がありました。その他、稲毛区、緑区及び中央区で流行発生警報終息基準値を上回っています。今シーズンである2018年第36週から2019年第7週までの累積報告数は7816件で、性別では男性が49.9%(3900名)、女性が50.1%(3916名)で、年齢階級別では5歳(6.4%:500名)、4歳(6.0%:472名)、7歳(5.8%:455名)の順で多く、20歳未満は全体の67.9%、10歳未満は全体の48.5%となっています。



	第7週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過		終息	終息	-	終息	終息	終息	-
過去10年の同時期との比較		少なめ	僅か	僅か	少なめ	やや少なめ	少なめ	少なめ
昨年の同時期との比較		少ない	少ない	少ない	少ない	少ない	少ない	少ない

<伝染性紅斑>

全国レベルの第6週は、過去10年の同時期と比べると最多のままとされています。都道府県別では、宮城県、新潟県、山形県の順で多く報告されています。千葉県はほぼ全国レベルと同じとなっています。千葉市では第2週から減少傾向となっていますが高い水準で推移しており、第7週は前週より増加し1.17となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(3.0/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の2歳、4歳及び5歳で多く発生報告がありました。2019年第1週から第7週までの累積報告数は138件で、性別では男性が54.3%(75名)、女性が45.7%(63名)となっており、年齢階級別では4歳(21.0%:29名)、5歳(16.7%:23名)、3歳及び6歳(共に14.5%:20名)の順で多くなっています。

